

Q02c 「なんてん」による ^{12}CO 銀河面サーベイ II

福井康雄、水野亮、松永健一、森口義明、大西利和、水野範和、山口玲子、斉藤弘雄、青山
紘子、山本宏昭、豊田秋一郎、伊藤雄樹、梅田裕介、中川眞規 (名大理)

我々はチリ共和国ラスカンパナス天文台に設置した「なんてん」望遠鏡を用い、1998年より ^{12}CO ($J=1-0$) スペクトルを用いて南天の銀河面のサーベイ観測を行ってきた。2.6分角のビームに対し、銀緯 $\pm 10^\circ$ の範囲を $|b| \leq 5^\circ$ の領域は4分角グリッドで、 $|b| \geq 5^\circ$ の領域は8分角グリッドで掃天している。約4年間の観測を通して、銀河系中心領域を含む銀経 230° から 60° までの銀緯 $\pm 10^\circ$ の領域と、より高銀緯に位置するカメレオン座・おおかみ座・へびつかい座・わし座等の近傍の暗黒星雲について観測が終了した。このサーベイで取得された100万点以上のスペクトルデータをもとに、銀河面の大局的な分子ガスの分布と物理状態について報告する。